

ビジネスリーダーに聞く

紙製品を中心に製造するマルアイ（市川三郷町市川大門）は今年、創業133年を迎えた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で紙製品の売り上げが減る一方、デジタル機器の普及などを背景に電子部品関連材料が伸びている。村松道哉社長（63）は「これから心や感動に訴えかけるような付加価値を提供できるビジネスを展開していきたい」と語る。

「新型コロナウイルスの影響
— 業況は。」

紙製品で暮らしに感動を

で結婚式やお葬式を行う人が減った。一方、レトルトや冷凍、メインの祝儀袋の売り上げ、連泊などの食品パッケージの食シヨン（DX）の推進などで売は非常に厳しい状況だ。店品関連材料は横ばい。導電・帯り上げが増加した。

「紙製品事業、食関連材料、電子部品関連材料の三つの事業があることだ。紙製品事業は新型コロナウイルスの影響で打撃を受けた。一方、横ばいだった食関連材料にしている。会社の中で共有する価値観『クワク、イキキ』を大切に、必要なものだけではない、期待以上のものや想像以上のものを作りたい。商品を通じて感動や驚きのある暮らしを提供していきたい」

「当社は『包』という行為の中に相手への思いやりや、『渡す』という行為を通じて、51歳で7代目社長に就任した。

経営とは無縁の家庭で育ち、若し社員たちを集めて自分たちの会社をつくりたいかを考えた。売り手良し、買い手良し、世間良しの三方良しに加え、社員良しを目指し、社員が生き生きと成長できる社にしていきたい」（聞き手・土屋真佑子）

マルアイ（市川三郷） 村松道哉社長



むらまつ・みちや氏 武蔵大卒。東京都内のスポーツアパレルメーカーに勤務した後、1987年にマルアイに入社。商品企画や営業部長などを経て、2009年に社長に就任。63歳。

愛読書 ビジネスや経営に関わる本。
趣味 劇団四季のミュージカルや、演劇などの観劇。
影響を受けた人 今までに出会った経営者や講演者。知らなかったことを知ることができ、影響を受けたことで今の自分につながっている。

転換点

大学卒業後、東京都内のスポーツアパレルメーカーにサラリーマンとして勤務した。結婚して3年後に県内に移住し、マルアイに入社。県内や東京都内などで企画や営業などに携わりながら、51歳で7代目社長に就任した。

経営とは無縁の家庭で育ち、若し社員たちを集めて自分たちの会社をつくりたいかを考えた。売り手良し、買い手良し、世間良しの三方良しに加え、社員良しを目指し、社員が生き生きと成長できる社にしていきたい」（聞き手・土屋真佑子）